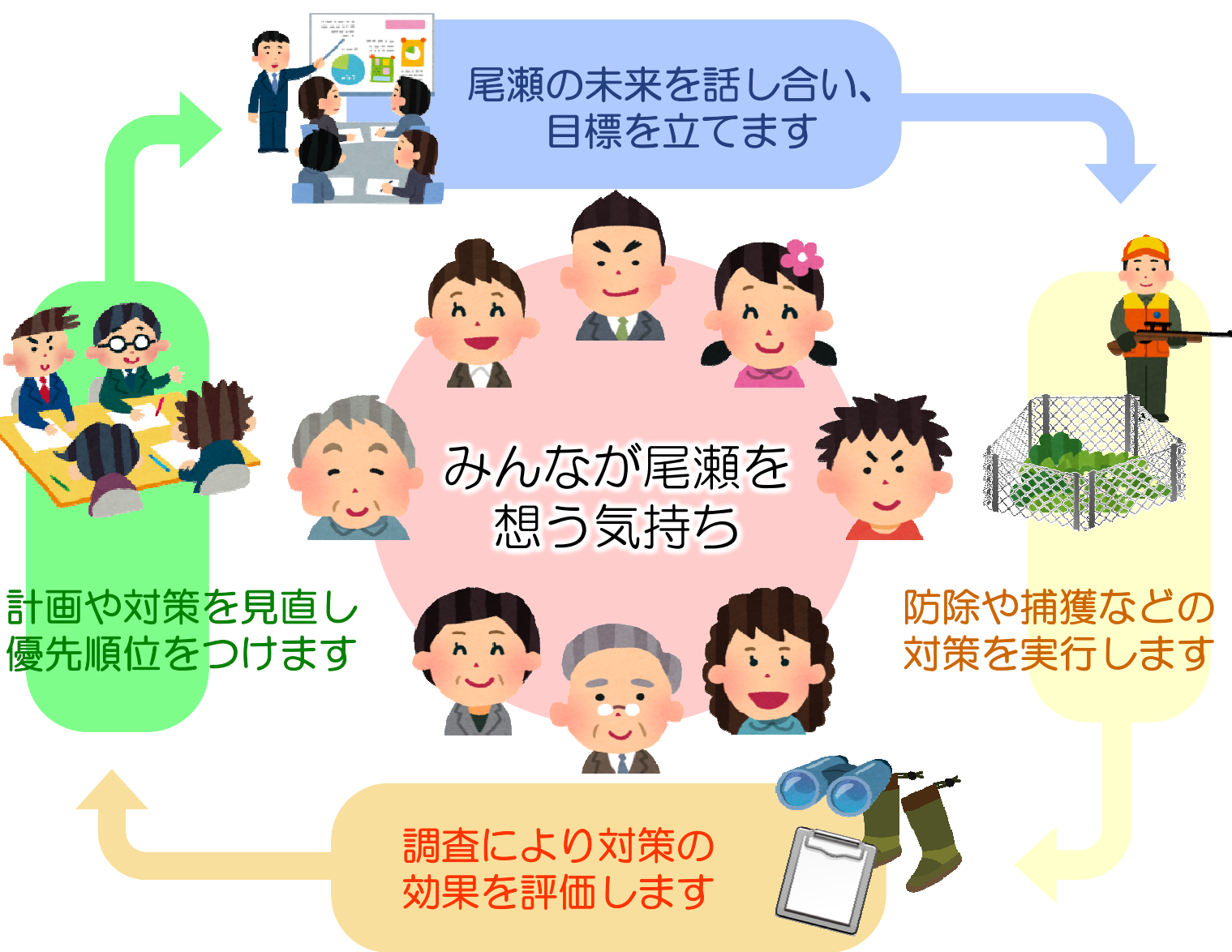


尾瀬の生態系を維持していくために



尾瀬国立公園の貴重な生態系を未来に残すための取組はあなたの尾瀬を想う気持ちに支えられています。



今後も尾瀬国立公園でのシカに対する取組を様々な形で情報提供していきます。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

発行日：平成31年4月1日

発行：環境省関東地方環境事務所

ニュースレター

尾瀬国立公園とニホンジカの今

今ニホンジカによる影響が深刻になりつつあること、知っていますか？

目次

- ・シカってどんな動物？
- ・尾瀬に忍び寄るシカの問題
- ・被害軽減に向けた取組
- ・尾瀬の生態系を維持していくために

シカってどんな動物？

体長 90～150cm **体重** 40～100kg

出産 1年に1回、春～夏に出産します。

豆知識①
ほとんどのシカは1度の出産で1頭産むよ！

食べ物
草食性
1日に2～4kgの草を食べます。

角

角はオスにだけ生えます。メスや0歳に角はありません。

豆知識②
オスの角は毎年春先に抜けて、生え変わるよ！

毛の色

夏は明るい茶色に白の水玉模様、冬は灰色がかった茶色に変わります。



尾瀬に忍び寄るシカの問題

近年シカは全国的に生息数が増加しており、国立公園においても様々な被害が報告されています。尾瀬国立公園では90年代半ば頃から本格的な調査により、シカによる被害が確認されています。



どんな被害があるの？

シカによる湿原被害は主に2つ！

植物の採食

シカが湿原や林内の植物を食べてしまうことによって、希少なものを含め植物全般の生育に影響が出てしまいます。

裸地化

シカが土壌を掘り返して泥浴びをしたり、踏み荒らししたりしてしまうことで湿原が露出してしまいます。



調査 シカの生息数を知る

ライトセンサス調査



夜間、湿原に出没するシカをライトで照らし、シカの数进行カウントします。



湿原内のシカ (写真中央)



ライトセンサス調査の様子

カメラトラップ調査



林内に設置した自動撮影カメラに写ったシカの撮影頻度から生息数进行把握します。



林内の自動撮影カメラ



自動撮影カメラに写ったシカ

結果 尾瀬ヶ原のシカは増加傾向

尾瀬沼のシカの数にはほぼ変わっていませんが、尾瀬ヶ原のシカは増加傾向でした。

調査 シカの行動を知る



GPS首輪

シカの行動を知るために、捕獲したシカにGPS首輪を装着して移動経路などを追跡します。

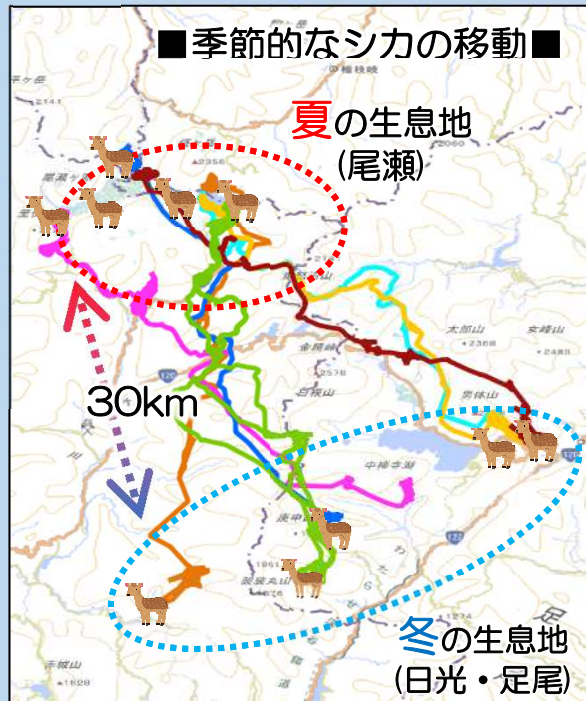


GPS首輪が装着されたシカ



GPS首輪

衛星を介してシカの位置情報が記録できます。



結果 シカは季節 移動をしている

尾瀬に生息しているシカは、冬になると日光や足尾への移動が見られました。

調査 植物への影響を知る



植生被害調査

シカに食べられた植物を数えて被害状況を把握します。



植生被害調査の様子



シカによる食痕

裸地面積の把握



ドローンで湿原を空撮し、裸地面積の増減を把握します。



シカにより裸地化した尾瀬ヶ原



木道のそばにも...

結果 植物への影響は大きい

ニッコウキスゲなどの希少種の採食や、湿地の踏み荒らしなど影響は甚大でした。

対策 捕獲

シカの個体数調整

シカの生息調査やGPS調査の結果から、捕獲場所や捕獲時期を検討し、捕獲を行っています。

銃器捕獲：銃器を用いて、シカの捕獲をしています。

わな捕獲：くくり罠を用いてシカの捕獲をしています。

※安全への配慮

木道から十分に離れた場所のみで実施しており、登山者への危険はありません。



くくりわな設置の様子

対策 柵設置

尾瀬ヶ原のシカ柵

植生保護及び景観維持のため、湿原植物をシカの被害から保護する柵を試験的に設置しています。



尾瀬ヶ原に設置された植生保護柵



大江湿原に設置された植生保護柵

大江湿原のシカ柵

ニッコウキスゲ等の湿原植物を保護する目的で、林野庁が設置しました。ボランティアによる取り付け、取り外しの支援も実施され、地域のみんなで湿原を守っています。